

外国人技能実習生の受け入れ ③

三津橋農産株式会社 永宮 清



1928年に精米業として創業した三津橋商店は、1953年に三津橋農産株式会社（以下、三津橋農産）として法人化され、以来、木製品を生産しています。

現在、三津橋農産は3名の外国人技能実習生（以下、実習生）を受け入れています。そこで、技能実習を担当されている永宮専務にお話を伺いました。

（文責：普及協会・菊地）

■三津橋農産の生産概要

三津橋農産の生産概要を表1に示します。北町工場はトドマツ、名寄工場ではトドマツ、カラマツを製材しています。二の橋工場では、製材、集成材を住宅部材、KDS4S、2×4材などに加工しています。

表1 三津橋農産の生産概要

工場	生産内容	原木消費量
北町工場 (下川町)	住宅パネルの芯材、羽柄材、梱包材	2.5 万 m ³
二の橋工場 (下川町)	製材、集成材の加工	—
名寄工場 (名寄市)	梱包材、パレット、土木資材	2.3 万 m ³

(2024 年度)

■実習生の受け入れ状況

実習生の受け入れ状況を表2に示します。現在在籍している3名は全てインドネシアから来ています。3名ともに技能実習評価試験を受検・合格し、3年間の在留資格を得ています。

表2 技能実習生の受け入れ状況

受け入れ時期	受入れ人数	現人数 ¹⁾
2023 年 3 月	3 名	1 名 ²⁾
2024 年 10 月	2 名	2 名

1) 2025 年 7 月末時点

2) 3 名のうち 2 名は 1 年間で帰国

名寄工場で働く職員は24名で、これに実習生3名が加わります。実習生は工場の一連の流れを実習した後、実習生の適性および従業員の勤務状況を勘案し、主にツインテーブル帯のこ盤の先とり（写真1）、および製材品の仕分け（写真2）・梱包の作業を担わせています。



写真1 ツインテーブル帯のこ盤



写真2 製材品の仕分け

■技能指導

技能指導の方法、工夫などの一例を表3に示します。

■生活サポート

実習生に対する生活サポートの一例を表4に示します。実習生に対する生活サポートは従業員の個人対応に依存している部分が多く、会社が主体的に実施していることは多くはありません。

実習生3名の現在は特段のトラブルもなく対応できていますが、将来、より多くの実習生を迎える際には何らかの標準化が必要になるかもしれないと考えています。

■今後

実習生を受け入れるまではとてもたいへんだと思っていたが、実際に受け入れてみると案ずるほどではなかった・・・これが今の実感です。

実習生の受け入れ人数には上限があり、名寄工場は上限に達しています^{注)}。

現在、北町工場への受け入れを考えているところです。また、当社が関わる下川町内の集成材工場でも受け入れが検討されています。

実習生の受け入れに要する経費は安くはありません。仮にそれを含めて時給換算すると、派遣社員を雇用するよりも高くなるかもしれません。しかし、多少掛かり増しになっても若者が職場にいてほしい・・・そんな気持ちもあって、実習生の更なる受け入れを検討しているところです。

注) 技能実習生の人数枠(基本人数枠) の例(抜粋)

常勤の職員の総数	技能実習生の人数
30人以下	3人
31～40人	4人
41～50人	5人

表3 技能指導の方法, 工夫

業務指導	<ul style="list-style-type: none"> ・作業指示は日本語で行い、スマホの翻訳アプリを活用して意思疎通を図る ・約1か月間、週に3日間、各日とも約1時間のマンツーマンの学習時間を設けた ・日本語ーインドネシア語併記のマニュアル整備は今後の課題 ・実習生の日本語能力にはバラツキがあり、きちんと理解できていないのに「わかりました」と答えるケースがあり、そこには注意
------	--

表4 実習生の生活サポート

住居	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物等の生活利便性が高い市街地の部屋を貸与(住居ー工場間の距離、約1.5km)
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年の受け入れに際しては、こまかな生活トラブルがあったが、その先輩実習生がゴミ処理をはじめとする生活ルールについて新規入居者を指導(先輩実習生に、年下の後輩実習生を世話する自覚の成長) ・無雪期は貸与した自転車通勤、積雪期は従業員が送迎 ・病院受診や医療に対する考え方が異なるのか、体調不良時の治療に消極的な傾向
社内および地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人従業員が主体的に生活、行楽を支援(例:花火大会観賞、日帰り旅行)(所用経費は会社が支給) ・社内に、世話をしよう、という雰囲気 ・実習生だけで道内在住の同胞との交流も